

# 1000より大きい数をしらべよう

～わたしたちが出しているごみの量～

<b>校種・学年</b>	小学校・第2学年	<b>教科等</b>	算数科
<b>時間・学期(月)</b>	11時間・後期前半(11月)	<b>副読本</b>	P11
<b>準備等</b>	写真資料、ごみの量が視覚的に捉えられる袋、ごみの量のデータ		

## 1 わらい

10000未満の数の数え方と命数法、記数法、4位数の位取りの仕組みを理解する。その際、身近な4位数として熊谷市の一人一日あたりのごみの量を扱うことで、個人が多くのごみを排出していることを知る。

## 2 伸ばしたい資質・能力

- 個人が多くのごみを排出し、地球温暖化につながっていることへの気付き
- 十進位取り記数法の仕組みを考え表現する力
- 自分達が、地球温暖化を防ぐためにできることを考える力

## 3 指導計画(全11時間)

時間	主な学習活動・内容等
3	○10000未満の数の数え方と命数法、記数法、位取りの仕組みを理解する。
2	○10000未満の数の構成について理解する。
1	○数の相対的な大きさを理解する。
1	○4位数の大小、順序を理解する。
2	○10000の構成、読み方、書き方及び10000付近の数を理解する。
2	○10000までの数の構成を多面的に捉える。



## 4 本時の学習指導(本時 2/11)

時間	学習活動	留意点 ★冊子の活用等
10	1117個の1円玉を数える。	★P11「ごみの処理に必要なエネルギー」 食べ残しなどのごみの量が増えることで、運搬、処理に使われるエネルギーも増え、二酸化炭素が増え、地球温暖化につながることに気付かせる。特に生ごみは水分が多く、重いため運搬にも処理にも大きなエネルギーを使う。
5	○数え方の工夫を確認する。	
5	○千百十七を数字で表す。	
5	○位取り表で千の位を知る。	
5	○1117が熊谷市の一人一日あたりのごみの量だと知る。	
2	○冊子から環境問題について考える。	
5	○ゲストティーチャーの話を聞く。	
3	○自分たちにできることは何かを考える。	
5	○振り返りをする。	

## 5 他教科等とのつながり

○2年生 生活「うごくおもちゃ」

## 6 社会とのつながり

- 家庭と連携した材料集め
- リサイクル容器の使用

## 7 おすすめのポイント（さらに、効果アップ！）

- ごみの量を視覚的に捉えられる袋を用意し、個人が排出するごみの量の多さに気付かせる。
- ゲストティーチャーから話を聞くことで、自分たちの出すごみが地球温暖化につながっていること、そして自分たちができることは何かを考えさせる。
- 冊子を使うことで、食べ残しなど、日常生活の中で地球温暖化を促進させてしまう場面があることに気付かる。

## 8 授業後の児童の感想、参観された方の感想など

- 1000より大きい数の学習の数字が、熊谷市のごみの量だと知って驚いた。
- 1117gが予想したより重かった。6人家族分だととても重いことが分かった。
- ゲストティーチャーがきてくれて、話を聞けて勉強になった。
- 食べ残しをしないようにしたい。ごみを減らしたい。
- 算数の学習に+αで環境問題の学習が出来ていたのが良かった。
- 教科横断的な学習が出来ていた。
- 新しい時代に必要な能力を育成するのに良い授業だった。



## 9 研究協議の内容

- 1117という数字が適切であったか。数えるには簡単だった。でも内容を1時間に収めるには丁度良い数字だった。
- 環境をプラスしたことで、時間内に収めるのが難しかった。
- 冊子の活用方法の工夫について。